

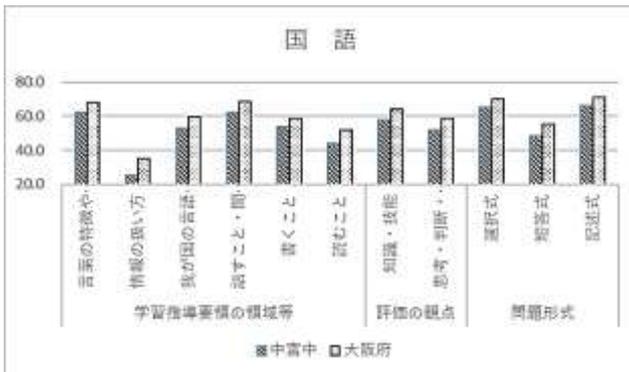
中宮中学校 2,3年生
保護者のみな様

枚方市立中宮中学校
校長 町田 弘明

令和3年度 大阪府中学生チャレンジテストの結果について

令和4年1月13日(木)に実施しました大阪府中学生チャレンジテストの結果分析と、これからの各教科の取組みを取りまとめました。子どもたちの学習の状況と学校での各教科の取組みについてについて、ご理解をいただき、家庭学習の習慣や環境づくりなど、ご協力をお願いいたします。

■1年生



《国語》

すべての領域において、府平均を下回っており、特に、『読むこと』と『我が国の言語文化に関する事項』の二観点は、大きく下回っていました。

問題では、授業で、学び合いながら主体的に取り組んでいた「文節区切り」は力がついており、正答率が高かったです。漢字は「読み取り」はできているのに、「書き取り」には課題がありました。また古典の理解は大きな課題です。

●これからの取組み

毎週の漢字ノート、漢字テストを継続、書き取りの課題を設定します。また、「現代仮名遣い」「古語の意味」など古文を読むための技能は、授業で再度定着を図ります。

《数学》

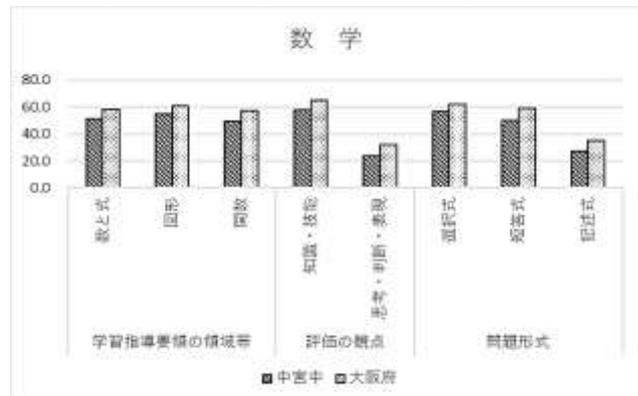
すべての領域で府平均を下回っていました。

計算は、“-”が含まれると、ミスが多く、方程式の問題は分配法則を用いて解く問題で、正答率が低かったです。一方、比例反比例の問題で、座標の位置を選ぶ問題では府平均を上回っていました。

活用問題のように文章が多く、記述して解答する問題は無回答が多く、正答率は低かったです。

●これからの取組み

1. 計算問題に関しては、2年生の計算領域の時に補充プリントなどを用いて問題を解く機会を増やします。また、計算問題を間違えた際に、どこをどう間違えたのかをしっかりと把握させ、繰り返して定着を図ります。
2. 活用問題に関しては、定期テストで形式が似た活用問題を出題、苦手意識を無くしていきます。

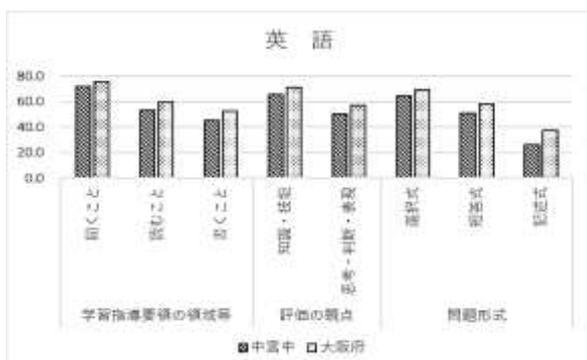


《英語》

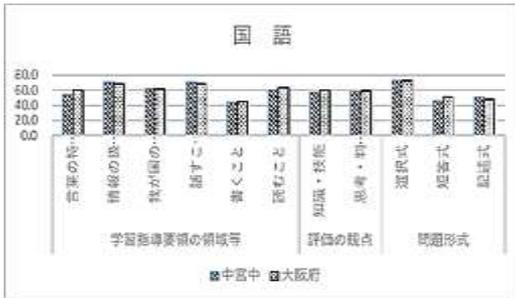
すべての領域において、大阪府平均を下回っており、特に『書くこと』に大きな課題があります。リスニングでは、キーワードや単語の聴き取り問題では正答率が高いものがありましたが、会話内容の理解はできていませんでした。また、問題から情報を読みとり、記述する問題は難しかったようです。

●これからの取組み

1. 前後の内容から推測する会話文など「思考・判断・表現」をうながす課題に取り組む。
2. パアのロールプレイで、会話の流れを把握して考える課題を多くし、単語だけでなく内容を読みとる。
3. 英文の質問に対する正しい答え方が定着するよう、その都度課題を設定し確認します。



■2年生



《国語》

授業で話す活動を多く取り入れた成果として、「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」は府平均を大きく上回っていました。しかし、「漢字を読む(車窓・描写)」は府平均をかなり下回っており、指示語の問題もあまりできていませんでした。

●これからの取組み

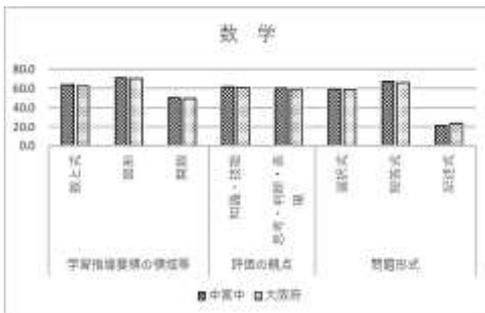
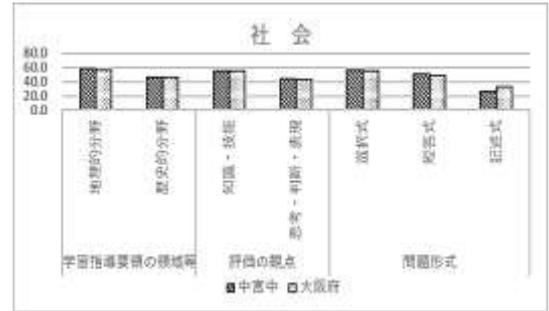
話し合いやプレゼンテーションなどの発表などの言語活動は継続しながら、文章全体の内容を大まかに把握するだけでなく、指示語や要点をおさえる授業も増やしていきます。語彙を増やすために、教科書以外にもできるだけ多くの文章に触れる機会を設けます。

《社会》

歴史・地理分野とも知識技能分野は府平均を上回り、特に正答率が低い生徒は少なかったです。また、授業で地図帳の課題になれていた成果で、地図から位置を選ぶ問題はできていました。一方、資料を読みとり、記述する問題や「商品作物」などの基本的な語句を答える問題ができていませんでした。

●これからの取組み

1. 授業の課題やテスト(活用問題)で、資料を読みとり、関連付けて考察する力の育成に取組みます。
2. 「問題づくり」の課題で、正しい語句理解の定着を図ります。
3. テストでは、一問一答でなく、読み取る力を求めます。



《数学》

全領域・観点・形式で府平均と同等か上回っていました。無解答率が低く、意欲がうかがえます。等式変形や一次関数の傾き、切片など授業で深く学んだ内容が特にできていました。正答率が低い問題は、同じつまずきが多く、複合的な問題は、全体に苦手なようです。

●これからの取組み

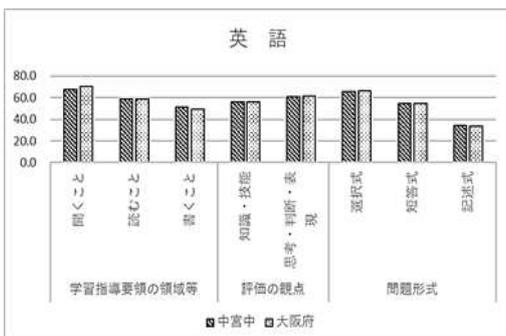
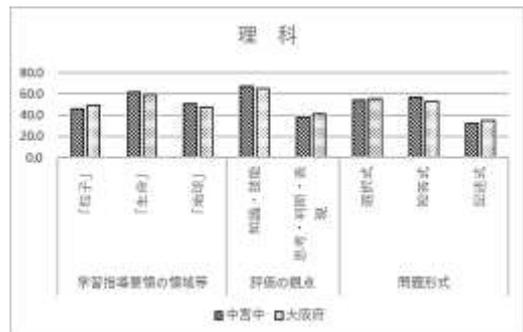
1. どう間違ったか、なぜ間違ったかを追求する授業を進めます。
2. 学んだことを組み合わせる「活用」課題に取組んでいきます。

《理科》

生命・地球分野は、府の平均を上回りましたが、粒子分野は府の平均を下回りました。観点では知識・技能は府を上回ったが、思考・判断・表現は下回っています。記述式の問題と特に粒子分野の計算問題は苦手だとわかる結果でした。

●これからの取組み

計算を扱う単位では、数字の単位に注意し、全員が理解できるように考え、答えを導き出す課題演習の時間を充実させる。引き続き、補習や復習を生かして知識・理解の定着に取組みます。



《英語》

選択式の問題に比べ、記述式の問題の無解答率が高く、終盤では選択式も無回答が多くなる傾向がありました。日本語の【メモ】を読み取り、空欄の語句を決まった語数で答える問題は特にできていませんでした。聞き取りは約9割が正答する問題もありました。

●これからの取組み

身につけた基礎・基本を活用すればできる課題に、取り組む機会を増やします。時間配分を意識する課題トレーニングを取り入れます。